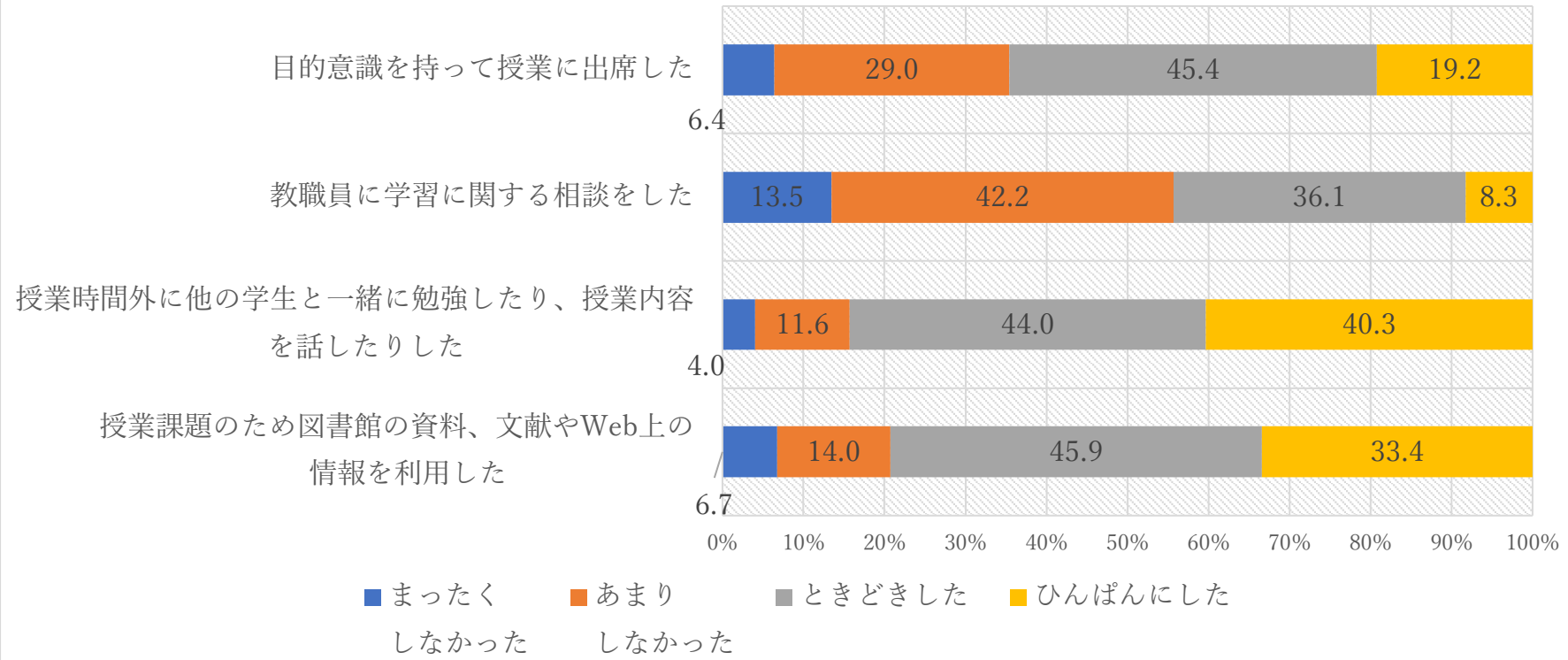
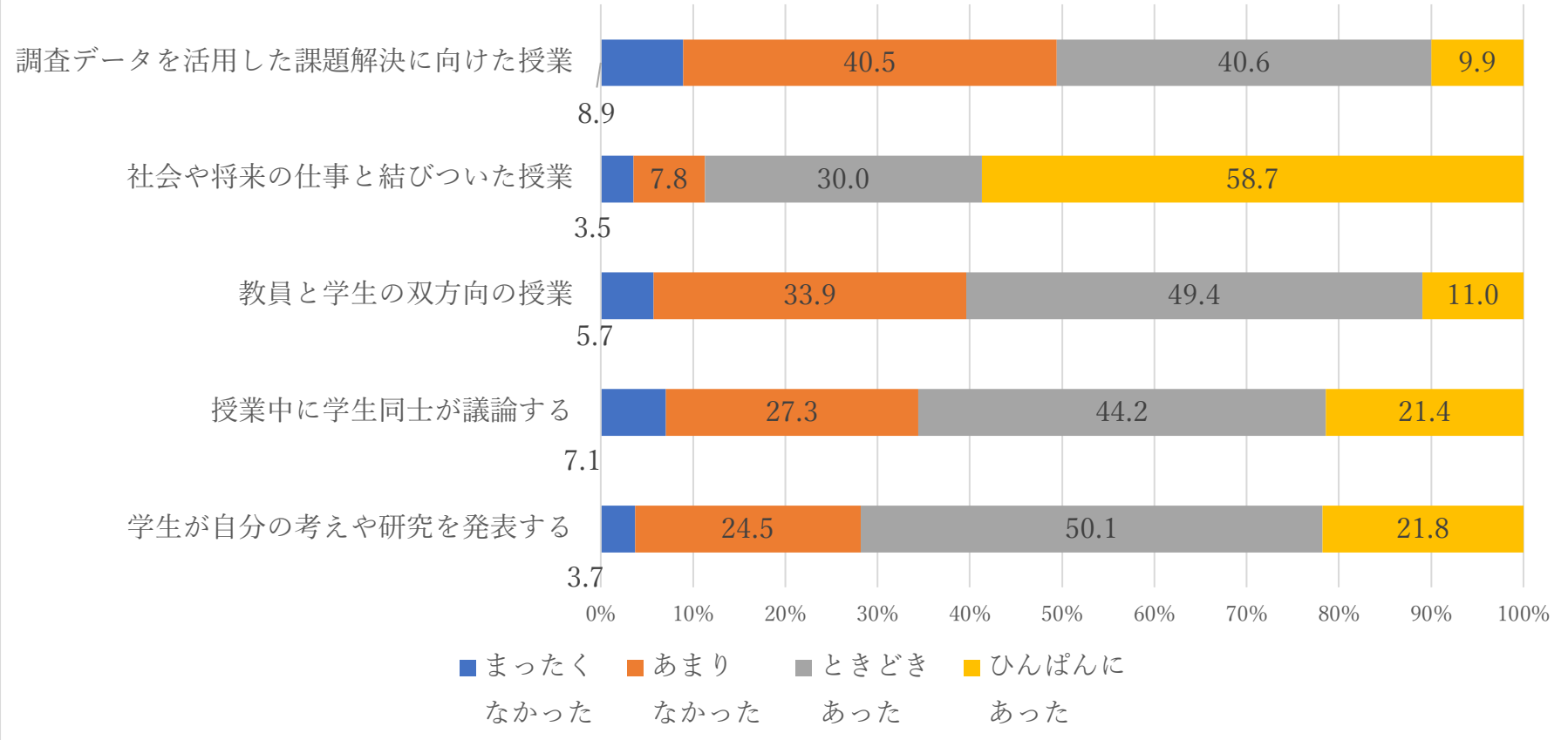


学習行動



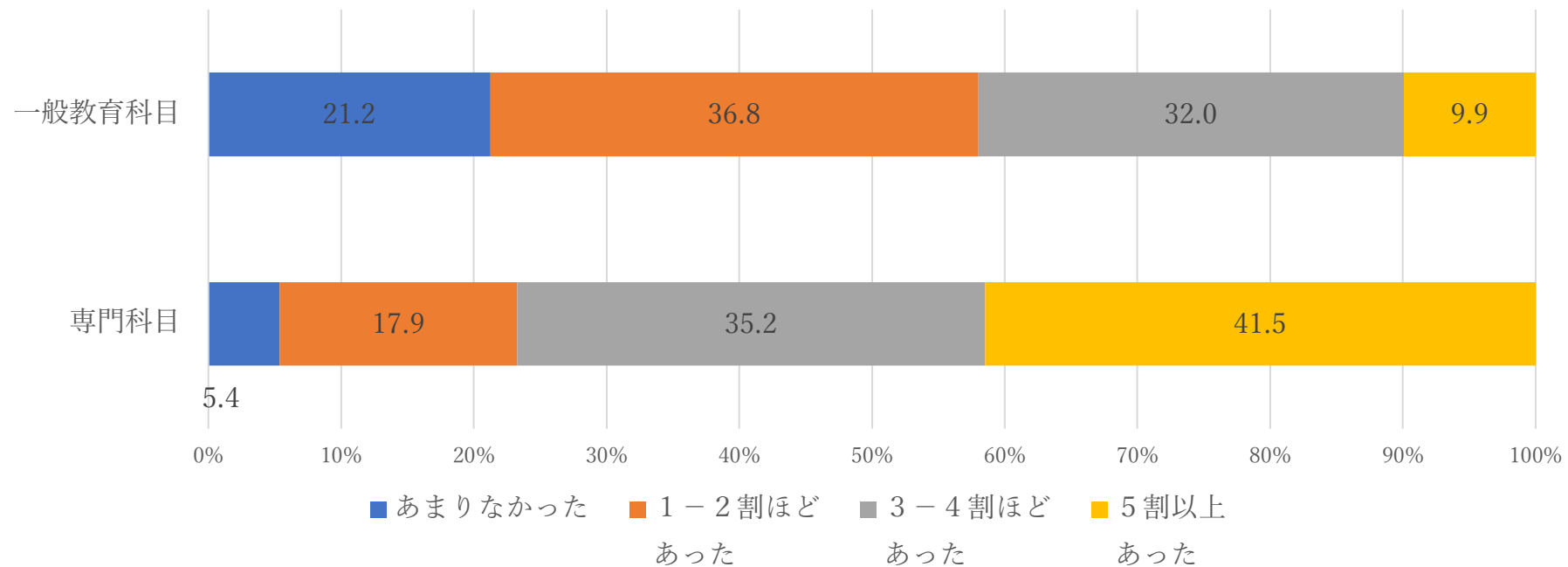
保健学部

学習機会



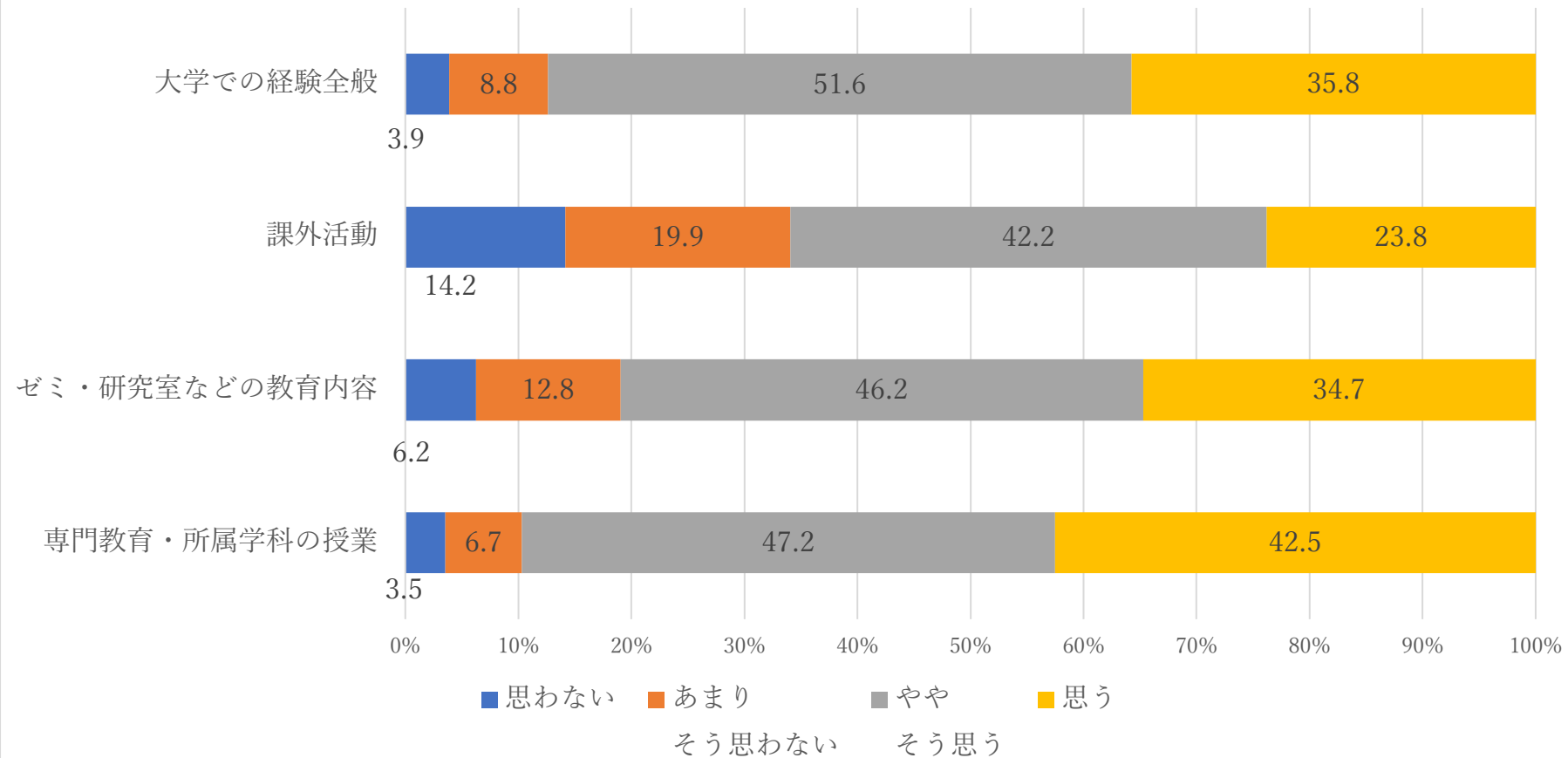
保健学部

学びの興味・関心



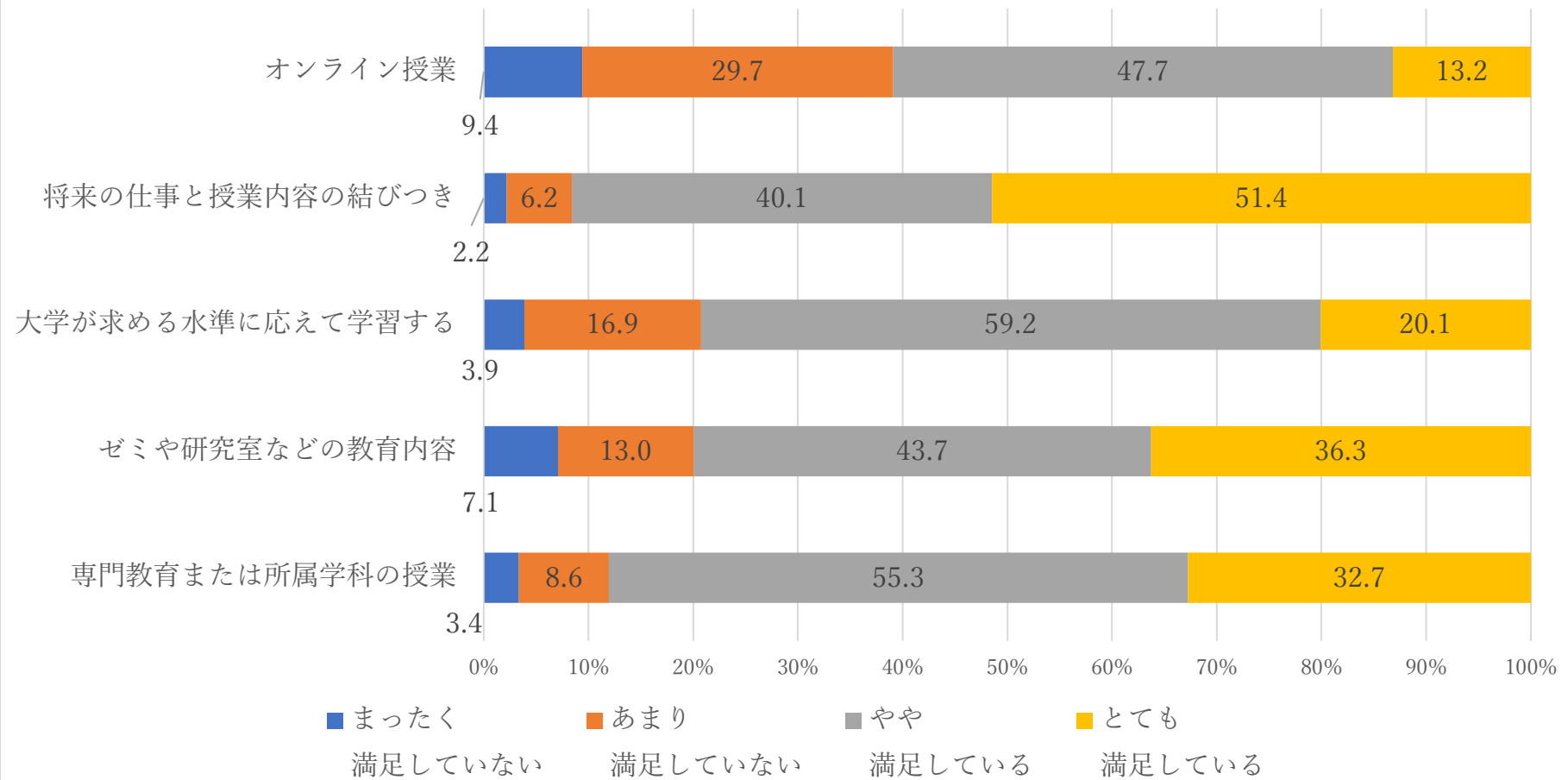
保健学部

成長実感



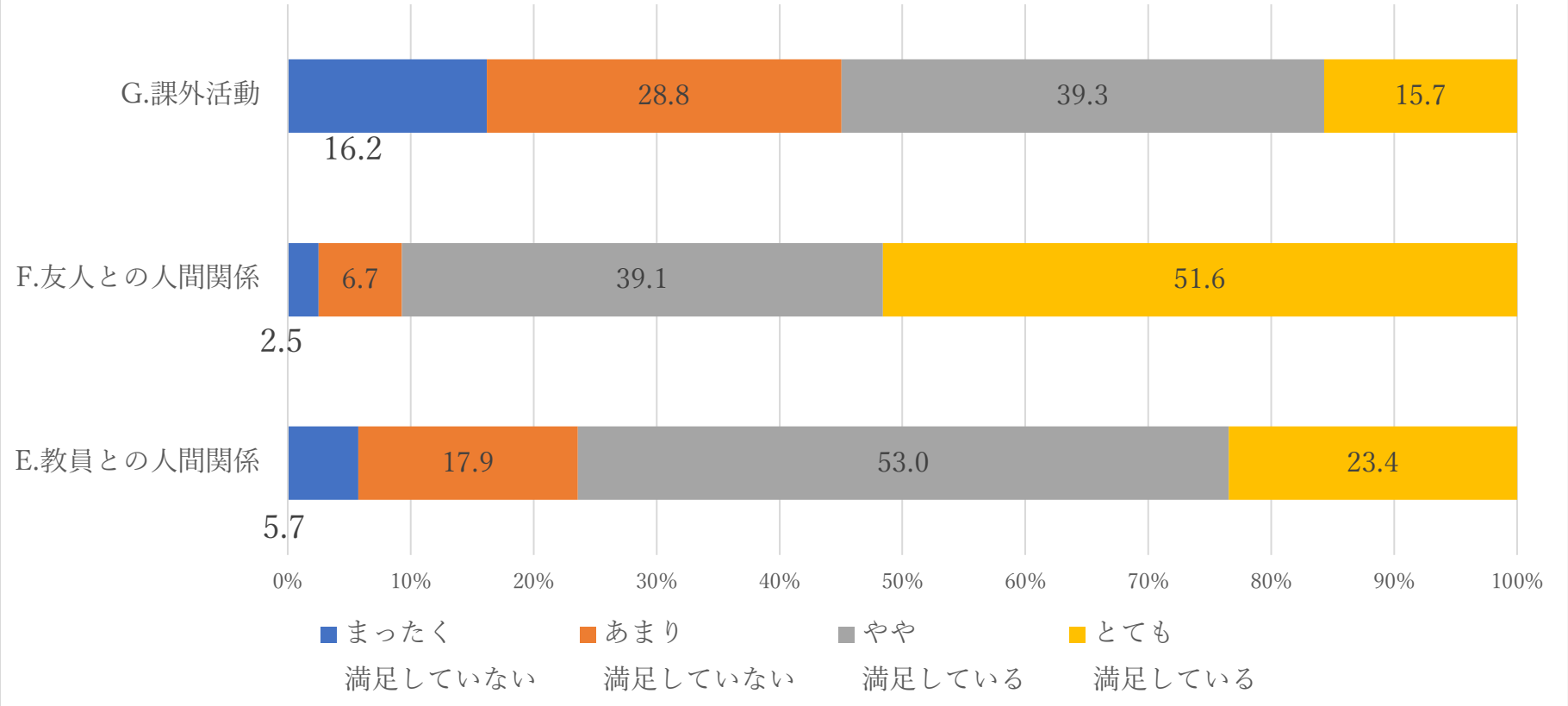
保健学部

教育内容 満足度

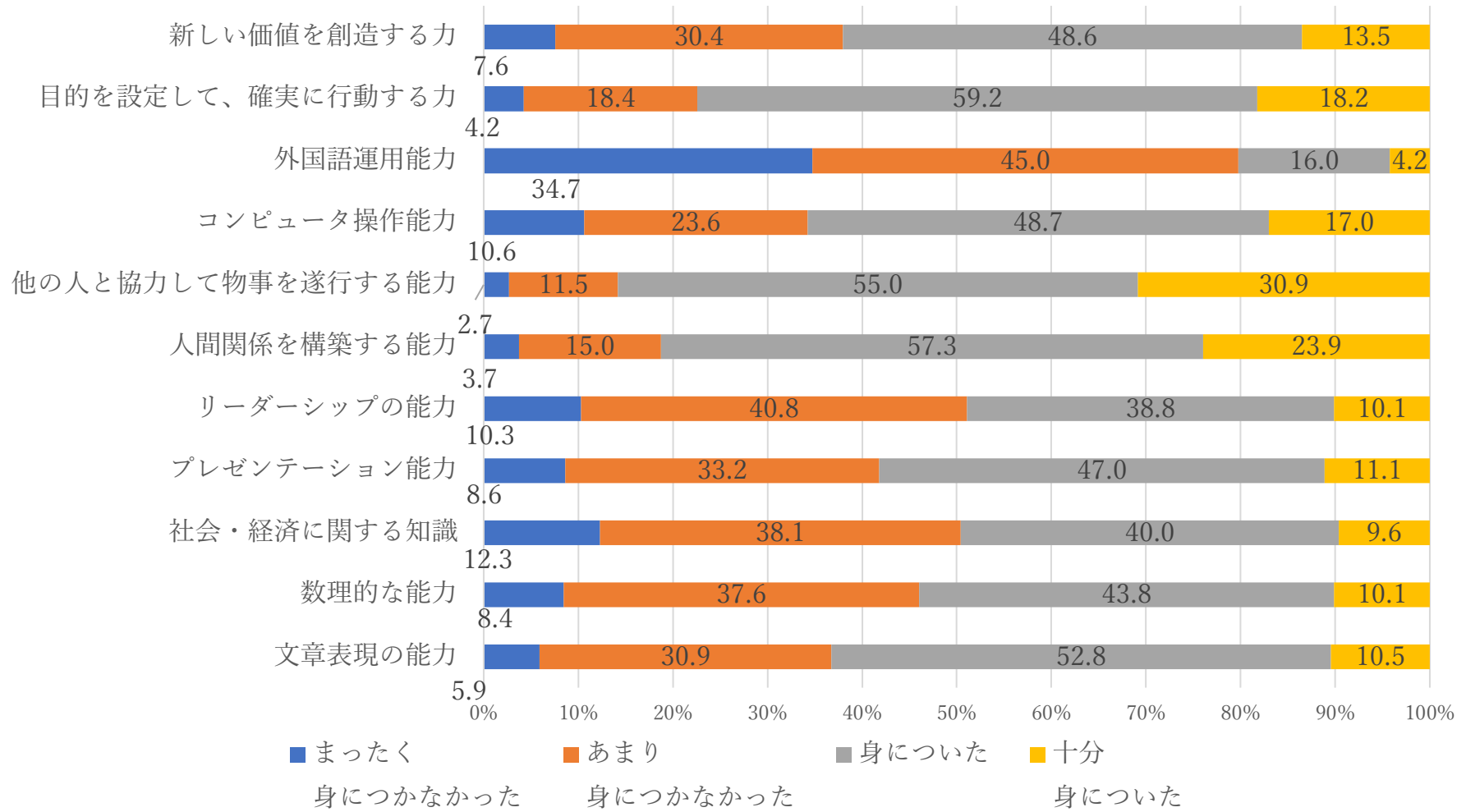


保健学部

人間関係・課外活動 満足度

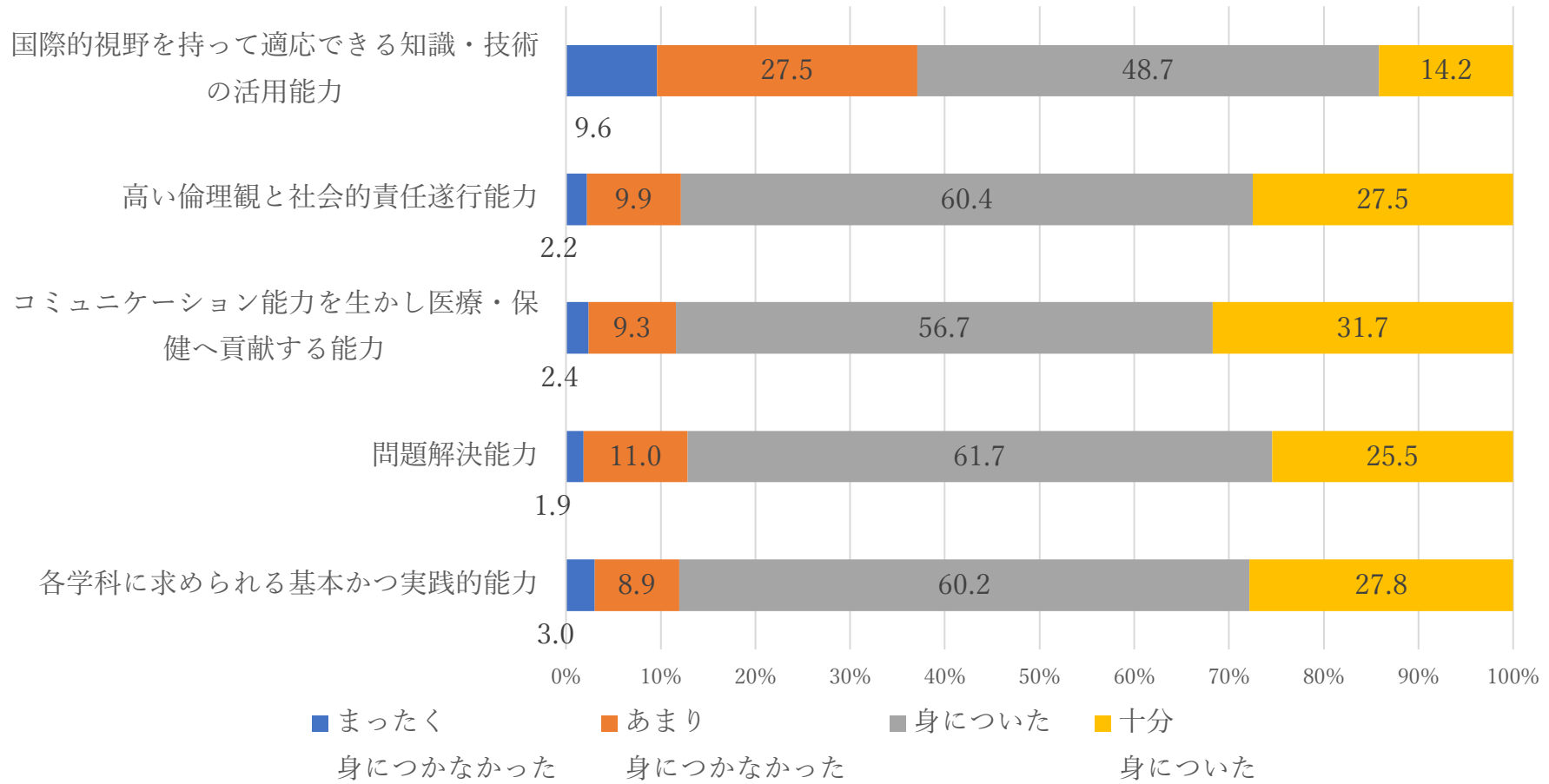


卒業時の知識・能力



保健学部

ディプロマ・ポリシーに定められた学修成果



総 評：保健学部

保健学部の卒業生に対し、学部ディプロマ・ポリシーに定められた学修成果が身についたか否かのアンケートを行った。その結果、「高い倫理観と社会的責任遂行能力」「コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力」「問題解決能力」「各学科に求められる基本的かつ実践的能力」については、それぞれの項目で87%以上の学生が「身についた」と回答した。しかし、「国際的視野を持って適応できる知識・技術の活用能力」では37.1%の学生が「見につかなかった」と回答した。37%の学生が「身につかなかった」と答えた要因の一つとして、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う海外研修の中止が影響していると考えられた。これらの結果より、学部ディプロマ・ポリシーに定められた学修成果は、在学中の学習によりほぼ身につけていると判断された。

在学中の学習行動に関するアンケートでは、64.6%の学生が「目的意識を持って授業に出席した」と回答しており、79.3%の学生は「授業課題のため図書館の資料、文献や Web 上の情報を利用した」と回答している。特に専門科目の5割以上で興味を持てたと回答した学生が41.5%存在した。

教育内容の満足度では、「専門教育または所属学科の授業」に対して88%の学生が満足と回答しており、「将来の仕事と授業内容の結びつき」について91.5%の学生が満足と回答した。これらの結果より、各学科の教育内容への満足度は高いといえた。

成長実感については、「大学での経験全般」は87.4%で、また「専門教育・所属学科の授業」では89.7%の学生が成長実感ありと回答した。卒業時の知識・能力に関する11項目のアンケートでは、特に「目的を設定して、確実に行動する力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」が身についたと回答した学生が、それぞれ77.4%、85.9%存在したことから、現在の学部教育により、将来、保健医療分野の職業において十分な実力を発揮できる人材が養成されていると確認された。